

特定外来生物

外来種

緊急対策外来種

重点対策外来種

コジュケイ

学名 *Garrulax canorus*
キジ科



ヤブの地上で採食するコジュケイ

コジュケイの生態

コジュケイの暮らしはニワトリによく似ています。5～10羽ほどの群を作り、地上で餌を捕ります。林の中を歩き回り、特によく繁った林床（ヤブ）を好みます。落葉を足で掻き分けて植物の種子や昆虫、ミミズなどを食べます。

地上の草むらに巣を作り、7・8個の卵を産みます。生まれた雛はヒヨコのように親鳥の後をついて歩きます。夜は2～3mほどの樹上にとまって寝るのが普通です。



孵化して間もないコジュケイのヒナ

卵から孵るヒナは6～8羽ほどで、親鳥の後について歩き回ります。

100年前の移入種の今は

コジュケイ移入・増加の経緯

コジュケイの原産地は中国で、1919年に東京都と神奈川県で狩猟鳥として10羽前後放鳥され、増殖しました。1932年には横浜で捕獲が許可されて狩猟がスタートしましたが、同時に全国的に放鳥されて、温暖な地域に広がりました。神奈川県では、箱根や丹沢の高標高域を除く各地域に生息しており、特に里山環境に多く生息しています。三浦半島ではほぼ全域に生息し、住宅近くの斜面林にも普通に生息しています。



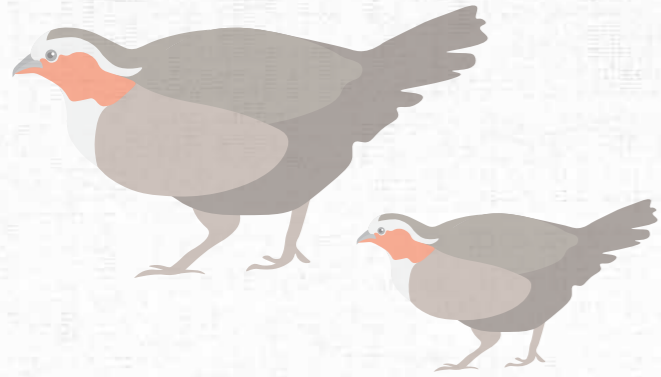
外来生物マニュアル特設ページ（他の外来生物の写真や音声などもご覧いただけます）

確立された生態系の地位

コジュケイは外来種ですが、移入されて 100 年が経過し、既に生態系の一員になりつつあります。コジュケイ自身は昆虫・ミミズ・植物の種子を食べますが、生態系の上位に位置する動物からは捕食される存在です。

三浦半島では、フクロウが年間を通してコジュケイを良く捕食しています。また冬鳥であるノスリも、上空から急降下して地上にいるコジュケイを捕食します。また野生化したノネコも、コジュケイを捕食していると考えられます。

コジュケイの捕食者



ノスリ 在来種



フクロウ 在来種



ノネコ



樹上のコジュケイ

コジュケイ、その影響は

コジュケイと同じ生活をしてきたのが、在来種で日本の固有種でもあるヤマドリです。ヤマドリは雄の縄張り意識が高く、元来個体数は多くありませんでした。三浦半島では今世紀になって記録がなく、地域から絶滅したものと考えられています。

ヤマドリの絶滅に、コジュケイの存在が影響していた可能性があります。生息場所での競合や、コジュケイの存在が捕食者を増加させ、それに伴ってヤマドリの減少があったかもしれません。現在も三浦半島に生息しているキジも同じような生活をしていますが、コジュケイよりも開けた草原的環境を好み、その点で競合が少ないと思われます。

今後、コジュケイをどうするか

すっかり生態系の一員となってしまったかのようなコジュケイですが、外来種であることに変わりはありません。狩猟鳥として放鳥された経緯がありますが、狩猟（銃猟）は現在三浦半島では行われておらず、全国的にも減少しています。このままコジュケイを受け入れてしまうのか、それとも段階を経て元来の状況に戻すのかは私たちが選択すべき課題です。

捕獲方法について

地上に置いた箱わなでの捕獲が効果的です。